

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局 指導普及課
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成 23 年 9 月 発行 No. 31 号



ホウオウボク

2011 年国際森林年記念イベント（講演及び森林観察）開催のお知らせ

2011 年は国連が定めた国際森林年であり、テーマは「森を歩く」となっています。

九州森林管理局では、これを踏まえ 11 月 26 日（土）に、西表島において国際森林年記念イベントを実施します。

当日は、琉球大学名誉教授の新本光孝先生による講演と西表島のマングローブ林、湿地林、山地林を歩き、森林生態系及び生物多様性について知って頂くことにしています。

詳細については、当センターまでお尋ね下さい。よろしくお願いたします。



石垣島ボーイスカウトの“ピナイサーラの滝探検”を支援

西表島の大自然に触れ、自然のすばらしさ、厳しさを子供達に感じてもらい、また普段できない体験を通して体力作りや冒険心を養うことを目的とする日本ボーイスカウト沖縄県連盟石垣第一団（我喜屋隆団長）の平成 23 年度夏期キャンプが 7 月 23 日（土）～25 日（月）の日程で行われ、当センターに対し、7 月 24 日（日）のピナイサーラの滝への登山案内の要請があったことから森林環境教育の一環として支援しました。

石垣市内の小学 3 年生から高校生までの 15 名（男子 9 名、女子 6 名）の団員と保護者数名が参加した探検隊一行は、当センター職員から登山に対する注意等の説明を受けた後、マーレ川のピナイサーラ登山口（ポンプ小屋先）から登山を開始、滝上までの約 1 時間 30 分、大粒の汗を流しながらの登山となりました。

途中の滝上からの眺望の素晴らしさに、疲れも吹き飛び、その後滝壺へと下り、昼食、水遊び等で楽しい時間を過ごしました。

移動の途中途中では、職員からテナガエビやキノボリトカゲ等の生物やサガリバナ、オキナワウラジロガシ、サキシマスオウノキ等の植物等の説明を受け 15 時頃には全員無事に下山しました。暑い中、約 5 時間の登山、皆様お疲れ様でした。



ピナイサーラの滝上で記念撮影！

仲良川マングローブ林のモニタリング調査を実施

昨年度、新たに調査地を設定した仲良川におけるマングローブ林のモニタリング調査を7月14日(木)、15日(金)の両日で実施しました。

調査地は仲良川を遡ること約2.4km上流に位置することから小型船をチャーターして現地へ出向き、1日目に調査木の生育状況、樹高、胸高直径の測定と光環境の変化を解析するための写真撮影を、2日目は稚樹の発生状況と地盤高測定を実行しました。

調査結果は、前回調査との間が半年と短いことから大きな変化は見られませんでした。

仲良川流域は思った以上に河床全体に土砂の堆積が進行し、船舶の航行に困難さが生じつつあるようです。いずれは、この堆積する土砂についても対策を講じなければと危惧するところです。



仲良川マングローブ林調査地

浦内川と仲良川のマングローブ林立枯れ被害箇所のモニタリング調査を実施

昨年度から調査を開始した浦内川と仲良川のマングローブ林立枯れ被害箇所のモニタリング調査を7月28日(木)、29日(金)の両日で実施しました。

調査項目は、調査対象木の生育状況の視認、砂泥の堆積状況の変化を確認するための地盤高調査、そしてヒルギ等の膝根（オヒルギは、地中を横に這う根の所々が地表に盛り上がるように顔を出してはまた潜り込むという形のものを作ります。膝を立てたところに似ていることからこれを膝根（しっこん）といいます。）の状況について調査しました。

浦内川の調査地では、調査対象木135本の内48本の枯損木を確認、前回調査時と変化はありませんでした。地盤高についても変化なく、区域内12箇所での膝根の出現状況は1㎡あたり平均21本でした。枯損木が多い周辺では表面に出現している膝根より土中に埋もれた膝根を数多く確認しました。



浦内川の調査設定地



仲良川の調査設定地

また、仲良川の調査地は、87本の調査対象木の内、37本が枯損木で、今回新たに枯損木1本を確認しました。こちらも地盤高に変化は見られず、区域内6箇所でも調査した膝根の出現状況は1㎡あたり平均4本に留まり、全体的に膝根の出現状況は芳しくない状況になっています。

今後も、両調査地共に膝根の出現状況などに注意を払いつつ引き続き調査を継続していきます。

環境省那覇自然環境事務所と沖縄森林管理署との連絡会議の開催

7月4日（月）に那覇市の環境省那覇自然環境事務所において、環境省那覇自然環境事務所と沖縄森林管理署との連絡会議が開催され当センターも参加しました。

会議は、環境行政、林野行政の各種施策が、関係する組織において相互理解を深めた中で実行されることを目的として毎年開催されているもので当所職員4名を含む29名が参加し、各機関が行っている業務説明と本年度重点的に取り組んでいる事項等について意見交換を行いました。

当センターとしては、本年度実施している①自然再生、希少種の保護・保全、②外来種（移入種）対策、③森林環境教育、④国有林の秩序ある利用に向けた誘導・支援について説明し、また、本年が国際森林年であることから、開催を計画している記念行事への協力をお願いしました。



連絡会議風景

漂流・漂着ゴミの実態調査（7、8月期）を実施

7月1日（金）と8月1日（月）に漂流・漂着ゴミの海岸林への影響調査を実施しました。

南風見田地区は、6月25日に八重山諸島近海を通過した台風5号の影響で、浮き球やペットボトル、蛍光灯等のゴミが増加していました。また、海岸線の状況も変化が見られ海へ流れ込む河口の位置も変わっていました。

南風見田地区以外の漂着ゴミの状況は、これまでと大きな変化は見受けられませんでした。

7月の美田良浜海岸には、ウミショウブが開花の時期を迎えていたこともあり、水面には無数の白い雄花が漂い、観察会やNHKの取材が行われていました。

8月のユチン地区では、ハマユウが白い花を咲かせグンバイヒルガオが漂着ゴミを覆い尽くすほどに繁茂していました。

美田良浜のウミショウブ



河口の位置に変化があった南風見田浜



ユチンの浜のハマユウとグンバイヒルガオ

仲間川保全利用協定締結者が行うモニタリング調査を支援

7月13日(水)、仲間川保全利用協定の締結事業者が行う①砂泥の移動、②ヒルギ類の幼木の成長についてモニタリング調査の支援を行いました。

砂泥の移動調査では、平成23年4月の前回調査時と比較して2地点で土砂が堆積し、3地点で土砂が流失していました。10cm～15cm程度移動していたのが2地点、他の3地点は5cm以下の移動でした。

ヒルギ類の幼木の成長調査のうち着葉数については、前回調査時点から、1本を除き着葉数が、増加していました。樹高については、2本が上長成長していました。



砂泥の移動状況調査

西表島の植物

リュウキュウコクタン

学名 : *Diospyros ferrea* var. *buxifolia*

科名 : カキノキ科

属名 : カキノキ属

分 布

沖縄、中国大陸南部、台湾、インド、マレーシア、ミクロネシアに分布する。



形 態

常緑の中高木で、別名ヤエヤマコクタンともいいます。分枝が多く、樹皮は黒色。葉は革質で、長さ3～6センチの倒卵形または倒卵状楕円(だえん)形をしています。花は3数性で雌雄異株。果実は楕円形で長さ約1センチ。庭園樹として植栽され、堅くて重い材質から床柱や三線の竿などに使用されます。

林野庁 九州森林管理局 指導普及課 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>